

事業名称	郷土の文化を創造する美術館博物館連携事業		
実行委員会	安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会		
中核館	安曇野高橋節郎記念美術館		
	住所	〒399-8302 長野県安曇野市穂高北穂高 408-1	
	TEL	0263-81-3030	FAX 0263-82-0551
	ホームページ	http://www.city.azumino.nagano.jp/site/setsuro-muse/	
構成団体	碌山美術館/絵本美術館&コテージ 森のおうち/安曇野ジャンセン美術館/安曇野山岳美術館/井口喜源治記念館/臼井吉見文学館/安曇野市豊科近代美術館/田淵行男記念館/安曇野市豊科郷土博物館/貞享義民記念館/安曇野市天蚕センター/安曇野ビンサンチ美術館/安曇野市教育委員会		
事業開始時点の課題分析	<p>長野県安曇野市の魅力的な特徴として、旧市町村や民間企業、個人などが設置した 20 余りの美術館・博物館があります。しかしながら、複数の施設間の連携は不十分で、学芸員相互の調査研究の協力や資料の相互貸借など、連携によって新たな事業展開が可能です。そのためにも地域の学芸員や専門職員の意識改善を図り、風通しの良い連携関係が望まれます。</p> <p>中核館では、これまで地域住民と事業展開を行いつつ、施設相互の連携による教育普及活動を実施してきました。平成 30 年 3 月、当市は「第 2 次安曇野市文化振興計画」を策定しました。この計画には、施設間の連携・専門職員の育成の他にも、ボランティアの育成や学校等へのアウトリーチの実施を盛り込んでおり、事業実施の中で施設の活性化を行うものとしています。一方で、安曇野市の一般財源を用いた新規事業の展開は困難な状況にあり、資金確保も課題となっています。これまでの中核館の取り組みを発展させ、更なる活動の深化を図る必要があります。</p>		
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・施設相互の連携を行うため定期的な会議を行い事業への共通認識を高めるとともに、各施設が抱える課題の共有化を図ります。 ・学芸員等の研修会の実施により先進的な活動事例を学び、当市の事業の改善を図ります。 ・市民や観光客が美術館・博物館に親しむ機会を増やすとともに地域を周遊し、その魅力を知る機会を創出します。 ・市民との協働体制を築き、市民と美術館博物館の新たな関係性を構築します。 		
事業概要	<p>市民が美術館博物館に親しむ機会をつくり、参加施設が以下の事業を行います。</p> <p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <p style="padding-left: 2em;">小中学校のクラス単位の体験講座</p> <p style="padding-left: 2em;">ギャラリートークリレー</p> <p style="padding-left: 2em;">学芸員研修会</p> <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動・人材育成</p> <p style="padding-left: 2em;">ミュージアムボランティア養成講座</p> <p style="padding-left: 2em;">学校ミュージアム事業</p> <p style="padding-left: 2em;">出前展覧会</p>		

<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>(1) 地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 美術館・歴史博物館の情報発信、相互連携 □イ ユニークベニューの促進 □ウ 地域のグローバル化拠点としての美術館・歴史博物館 ■エ 地域に存する文化財を活用した地域共働の創造活動や地域の魅力の発掘・発信 <p>(2) あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 小・中・高等学校と連携した地域文化の担い手の育成 ■イ 大学等と連携した国内外で活躍する文化人材育成プログラムの開発 ■ウ 社会人ほか多様な対象者のための学習講座の実施 ■エ 障がい者の芸術活動支援・鑑賞活動支援等の事業 <p>(3) 新たな機能を創造する美術館・歴史博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> □ア 観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等他分野との連携・融合による活動 □イ 文化財の新たな保存管理・活用の手法の開発
<p>施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業により市民や観光客といった幅広い対象に向けての活動が実施できました。</p> <p>小・中・高等学校との連携において、特に地元大学や病院との連携は次年度へつながる実績となりました。今後は大学生と学芸員等の協働展覧会と大学または大学病院への出前展覧会を予定しています。</p> <p>ミュージアムボランティア養成講座に参加した市民は、名称をサポーターに変更し活動を続けています。協働できるサポーターの存在は美術館等にとって心強く、単館でなく地域でサポーターの能力を共有し共に地域文化を創造するモデルへと発展させていきます。</p> <p>スクールプログラムの企画立案やその冊子配布により、学校現場にとって美術館等を教育に取り入れやすい環境を準備することができました。多くの子どもたちが地域文化に触れることは、次代の地域文化の担い手育成に直接つながりますので、今後も継続的に活動を実施していきます。</p> <p>いずれの事業も美術館博物館への市民の期待を直接把握できる機会となりました。さらに本事業を通して学校や病院との新たな関係構築ができたことは大きな成果です。美術館等を中核として地域を盛り立てる活動を継続したいと考えます。</p>

【事業実績】

安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会において、市民と共に地域の文化を創造する事業として8つの事業を実施しました。

(1)地域文化の発信の核となる美術館・歴史博物館

①小中学校クラス単位の体験講座

ア 夏のミュージアムワークショップー美術館・博物館をあそびつくそう！

7月14日～9月30日 ワークショップ参加者数 326人

小中学校配布チラシ 8,000枚

※チラシ印刷費は安曇野市から計上

<成果／反省・課題>

(参加館) 各館の連携が希薄であった。チラシ効果に差があった。

イ スクールプログラムの企画と実施

参加館ごとにスクールプログラムを企画。体験講座実施校 11校

安曇野市内小中学校の職員宛てにプログラムをまとめた冊子 492冊配布。

<成果／反省・課題>

(参加館) 学校側からの反応や冊子に対する感想を収集し、今後に活かしたい。

ウ 大学連携

・意見交換会 12月2日 参加大学生・教授 13人

・東京藝大連携講座 2月9日 参加中高生 9人

<成果／反省・課題>

(意見交換会参加者) 学生と意見交換をする良い機会となった。しかしながら、学生から出された意見や提案をすぐに反映させることは難しい。

(講座参加者) 漆を使って絵付けをしたことがなかったのでとても新鮮でした。漆を使う機会があればまた挑戦してみたい。



②ギャラリートークリレー

10月20日～11月4日実施

参加者数 1,307人 トーク回数合計 376回 3館達成者 57人 (うちアンケート回答者 52人)

<3館達成者の傾向>

住まい…市内 22%、市外 17%、県外 61% 性別…男性 30%、女性 70%

イベントを知った方法…チラシ 25%、参加館で紹介…28%、学校…15% (以下ネット、紹介等)

<成果／反省・課題>

(来館者) 52人中、満足との回答が6割。3館達成者アンケートからは、今まで知らなかった場所を知ることができた、話を聞かなければ分からなかった等、好評であった。

(参加館) お互いに紹介をして連携をしているところが良い、とお褒めの言葉を受けた。

③学芸員研修会

2月22日実施 参加者数20人（対象者は近隣市町村の学芸員等）
講師／奥村綾乃（清須市はるひ美術館 学芸員）

<成果／反省・課題>

（参加者）清須市もサポーター導入に試行錯誤していたことがわかり、安曇野市もこれからだと思えた。来館者側の視点は見失いがちなので、それだけでもサポーターは価値のある存在といえる。



(2)あらゆる者が参加できるプログラム及び学校教育や地域の文化施設等との連携によるアウトリーチ活動・人材育成

①ミュージアムボランティア養成講座

活動日数合計19日、登録者数17人

<マスコミ報道>

募集記事 8月22日 日本経済新聞、8月28日 市民タイムス、9月12日 MGプレス

活動の様子 11月16日 信濃毎日新聞、11月16日 市民タイムス

展覧会 2月8日 市民タイムス、2月20日 MGプレス、市民タイムス

<成果／反省・課題>

（参加館）サポーターは熱意があり、よく動いてくれた。地元の人に美術館の活動を体験していただけたことが大きな収穫であった。私立美術館では地元の人と交流を持つことが難しい中、このような機会に恵まれ感謝している。サポーターを参加館同士でシェアできるのは先進的。施設の枠を越えた活用ができる点も評価できる。



②学校ミュージアム事業

安曇野市立穂高西中学校 11月29日実施 参加生徒数195人

安曇野市立穂高南小学校 12月6日実施 参加児童数593人

<成果／反省・課題>

（実施校）様々な分野があり、子ども達は興味のある作品に見入ったり、友達と見たりと様々な楽しみ方ができ、よかった。子どもたちの心を豊かにしてくれた、大変良い機会となった。子どもたちにとって興味深い作品が並んでいて良かった。鑑賞授業の一環として実施できるとありがたい。

（参加館）作品解説を通して中学生の興味や意欲を生で感じる事が何よりも嬉しかった。意欲的な質問やディスカッションは、こちらにも刺激になった。



③出前展覧会

安曇野赤十字病院 1月16日～1月31日実施、うち1月25日は作品解説、ワークショップを実施。

参加者数 6,500人、作品解説、ワークショップ参加者数 25人

・マスコミでの報道

1月18日 中日新聞、1月20日 読売新聞、1月23日 朝日新聞、1月22日 MGプレス、

1月24日 市民タイムス、2月1日 医療タイムス（病院専門誌）雪わり草（安曇野赤十字病院広報誌）

<成果／反省・課題>

（実施施設）癒しという観点から病院は美術館と同じ性格を持つことなど、今後広く認識されると思う。とても良い企画。今後も別の美術品が展示される事を楽しみにしています。

（参加館）インフルエンザの時期と重なったため、ワークショップなどへの参加人数は少なかった。しかしながら、入院患者向けに事業を行うことに意義があると感じている。



事業記録



夏のワークショップ



ギャラリートークリレー



学芸員研修会



ミュージアムボランティア養成講座



学校ミュージアム



出前展覧会



大学連携事業